

## 西部熱帯太平洋で観測された海洋表層 10m の詳細水温変動とそれに伴う大気変動 In-situ observed detailed temperature profile in surface 10-meter layer over the tropical western Pacific

勝俣 昌己<sup>1\*</sup>; Bellenger Hugo<sup>1</sup>; 米山 邦夫<sup>1</sup>  
KATSUMATA, Masaki<sup>1\*</sup>; BELLENGER, Hugo<sup>1</sup>; YONEYAMA, Kunio<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 海洋研究開発機構

<sup>1</sup>JAMSTEC

海洋表層数メートルの熱的分布は海面水温 (SST) に直接影響し、大気海洋間のエネルギー交換を左右する。この領域の詳細水温構造を把握するため、研究船「みらい」によるサーミスターチェーン観測を、「みらい」MR13-03 航海における定点観測期間 (12N、135E、17 日間) に実施した。観測データは、明瞭な日変化パターン、すなわち表層数メートルの昼間の水温上昇やその後の高水温層の深まりと消滅、を示していた。一方、表層 1m 以浅における約 0.5K 程度の水温低下イベント (約 3 時間) も観測された。同時観測された気象データからは、冷氣外出流を伴う降水システムがもたらす低水温の雨水の供給および弱風化による海洋鉛直混合の抑制がこの水温低下イベントをもたらしていると考えられた。